



発行所 徳友会 岩見沢支部
 岩見沢市日の出台2-7
 編集 陸上自衛隊 屯地
 印刷所 北海道立福祉村
 空知郡栗沢町最上350
 田 (0126) 45-2721

第十二施設群天塩を制す

団長検閲受閲

団は、新緑映える道北天塩地区において六月十五日(十七日の間第十二施設群に対し)一、状況を入れ、二、各級指揮官の適確な指揮により行動せよ。三、基礎動作を確行せよ。以上の三項目を要望され「師団の渡河支援に任ずる施設群の行動」について二夜三日にわたる訓練検閲を実施した。



今回群は、団長の訓練検閲を、今年度最大の目標に掲げ九年度の全期間を通じ継続的に練成し、その最終仕上げとして五月二十五日から天塩地区に進入し四週間にも及ぶ訓練を実施した。

この間五月二十六日(六月九日までの間を第二次群渡河野営)とし、各中隊計画に基づき、主に漕渡及び軽門橋、M4A2重門橋、徒橋、VLTBによる接岸設備の構築等を主体に実施し更なる練度向上を図るとともに、この間に主力となる中隊に対し訓練指導を実施し現段階における練度の確認、中隊・群としての問題点を明らかにした。また、六月二日団からの想定付与に対し群C.P.Xを実施し、団長検閲時の根本となる計画を策定し検閲に備えた。六月一日(六月二日)の第三次群渡河野営では第二次群渡河野営までの成果をふまえて急急渡河及び周密渡河に任ずる施設群の行動について平成九年度から断続的に練成してきた全てを出し切る形で第四科長が統幕官となり群長以下が、状況下で総合的に任務を達成した。このほか六月一日には群施設競技会(偵察ポト競技会)を実施してさらなる練度向上を図り万全の態勢で団長検閲に挑んだ。

六月十五日から十七日の間

「師団の渡河攻撃支援に任ずる施設群の行動」について検閲を受閲、天塩町市街地で編成完了後、20km離れた天塩川渡河地域に進出、速やかに偵察調整を実施後第三三六施設中隊・第三三七施設中隊は、渡河ポイントをもって小銃小隊その後追撃砲分隊、中隊本部等を突撃渡河させた。突撃渡河終了後軽門橋を構築し普通科中隊の高軌道車等の車両を渡河させ同時に第三三五施設中隊は、重門橋を構築し戦車を渡河させた。そのほか第三二二施設器材中隊は、交通路の確保のため自走架柱橋により相互通行可能な橋梁を架設した。第三三六施設中隊・第三三七施設中隊・第三四二施設中隊は、門橋・浮橋渡場の遠近岸の付帯設備を構築する等、これまでの訓練成果を遺憾なく発揮し、所命の任務を達成した。



優秀隊員は次のとおり
 ▽本部管理中隊 三曹 三浦章弘 ▽第三三五施設中隊 二曹 楠木 辰美 ▽第三三六施設中隊 三曹 澤原 智
 ▽第三三七施設中隊 二曹 斎藤 武彦 ▽第三四二施設中隊 二曹 澤田 儀文 ▽第三二二器材中隊 三曹 青木 稔 ▽第三〇二抗道中隊 二曹 上野 正三

中村 弘 陸将補が着任

七月一日付で御勇退した本保団長の後任として、富士の装備開発実験隊長から第十九代第三施設団団長として中村弘(なかもら ひろし) 陸将補が着任された。



七月三日南恵庭駐屯地で、団長着任式が、実施され若見沢からも群長以下二百二十名が参加した。着任に当たり団長は、第一に「訓練の精到」時代がどのように変わろうとも、自衛隊存立の基本は、我が国の平和と独立を守る。即ち我が国の防衛であり、これは不変の真理である。このため、我々は、諸制約を先行かつ計画的に克服し、隊員一人一人が、それぞれの職務、職責に応じた基礎的動作及び部隊としての基本的行動を徹底するとともに、固定概念や傍性打破し柔軟な発想に基づき創意と熱意を発揮し、厳しい訓練に邁進することである。

次に「地域との一体化」第三施設団が恵庭、岩見沢、幌別の地に産声をあげて約四十年になるが、この間我々に諸先輩は、自衛隊の本来任務に精進するとともに地元市、道の理解と信頼を獲得するため、広範多岐にわたる数々の努力をされて今日の施設団が存在する。即ち、地元市民あるいは道民の自衛隊に対する暖かい理解と信頼が、我々の任務遂行の大きな基盤、支援と言っても過言ではない。と二点を要望された。

七月九日団長は、岩見沢駐屯地を初視察され岩見沢駐屯地及び孫別演習場の現況を把握された。

本保団長離任
 前団長本保忠嗣陸将補が七月一日付で御勇退されることになり、六月三〇日、離任式が行われた。

離任式の訓示の中で本保前団長は二年間の在職間を振り返り、各部隊長はじめ隊員に対し謝意を表すとともに、「時代等の変異にもかかわらず、我々の基本任務は国の防衛に在る。」とし、厳しい訓練の追求による部隊の精強化を強調された。

株式会社 本堂建設工業

本社 〒068-21 TEL 010267-2-7300
 三笠市南山359番地1 FAX 01267-2-5856
 札幌支店 〒003 TEL 011-861-1381
 札幌市白石区本通り南1の8 FAX 011-869-5034
 石狩支店 〒061-32 TEL 0133-73-3111
 石狩市花川南1条1丁目 FAX 0133-73-0757

自衛隊退職者雇用協議会 岩見沢支部

事務局: 岩見沢商工会議所内
 支部長: 勝井祐輔
 TEL: 0126-22-3445

千葉電気工事株式会社

代表取締役 千葉嘉男
 岩見沢市東山町22番地71
 電話(0126)24-4567番

「平成十年年度定期総会」開催

隊友会岩見沢支部（支部長 長崎進氏）は、平成十年五月二十四日、岩見沢市内のホテル・サンプラザにおいて、五十二名の会員（委任状提出者百二十六名）が出席して「平成十年年度定期総会」を行った。

総会は、小山会計理事の司会進行により、細川副支部長の開会の言葉で始まり、国歌斉唱後、物故隊友及び殉職隊員に対する黙祷を行った。

「平成十年年度を振り返ってみますと国際化、自由化が進む中、相変わらず金融機関の破綻による経済情勢の悪化に伴う大型倒産が相次ぎ、我が国の先行きはどのように変わっていくのだろうか」と長引く不透明な経済情勢の中で推移した年でもありました。我々隊友会員に取りまして、このような経済情勢の中、それ

ぞれ第二の人生で就職しておられる皆様には、職務によって厳しい状況下で、今までに経験したことがのない業務を戸惑いを感じながらの日々を送っておられることかと察しております。また、悲しむことでは、昨年六月に我々の会員でありました吉良健治さんが約五年の長い闘病生活の後逝去されました。同志として忍びがたい感じがしてなりませんが、ここに改めてご冥福をお祈り申し上げます。また、札幌地方隊友会全体では、二十三名の方が亡くなっており、人生八十年、我々も健康には十分留意して会員同志がお互いに元氣であることを確かめ合いながら第二の人生を明るく楽しく過ごしていきたいものと存じます。ところで、自衛隊では第十三師団の旅団化、近代化改編並びに一部の即応予備自衛官を主体とする改編が進められております。この改編は、全国では平成十二年度までに一萬五千人規模の即応予備自衛官で実施されることになっております。我々隊友会としても今年度の課題としていかにしてPRをしバックアップしていくか、またもう一つの課題は、天災地変等による災害派遣やPKO派遣その他自衛隊が円滑に行動をする上においての

ボランテイアのあり方が隊友会全体に求められているものであります。本日は平成十年年度総会に当たり何かとご審議を頂きますが、部隊行事や会員の集いに一人でも多くの方が参加されて会員との交流を深めて頂けるようお願いいたします。最後にになりましたが、この一年役員の皆様にはそれぞれのお立場でお忙しい中を積極的にご協力を賜り、計画の全てを円滑に進めて頂きましたことを厚くお礼申し上げます。」と挨拶された。

議事進行の為、議長に神田務氏が互選され、議案審議に入り、各議案について、田中事務局長、小山会計理事、会計決算報告は監事の橋本了氏に代って田中事務局長から報告され、それぞれ満場一致で原案通り、承認された。名進行振りを発揮した神田議長が、会員各位のご理解とご協力に議長役を果たしたことに感謝を申し上げ議長を退任した。支部長挨拶後、田代善信副支部長の閉会の言葉をもちて本総会の全てを終了した。

引き続き表彰式を行った。◎支部長からの表彰状受賞者は次の通り
真松 正雄様 眞生 英夫様
佐藤 勝様 田代 繁之様
貴田 千城様 芳野 栄様
奥 正弘様 石川 征明様
高橋 道行様 板谷 孝昭様
佐藤 英也様 松沢 弘志様
佐々木 努様 土井 一寛様
松本 徹也様 林 治秋様
田村 久雄様 中村 直之様
小休止の後、岩見沢駐屯地

業務隊長宮脇 隆二氏による講話、演題「日本人の忘れもの」と題して約一時間行われた。この日本人の忘れものとは、国際的な視野に立って、日本の国家主権についてお話しされ私達がややもすると忘れ掛けている事、忘れてしまった事等思い出させ、今、日本は何かおかしいぞ、という観点から熱っぽく講演され五十二名の出席者は真剣な面持ちで聞き入り、有意義なお話に関心を深めた。

次に、記念撮影を同ホテルのスタジオで行った後、大懇親会を行った。

懇親会では、岩見沢市長代理に助役である嵐幸雄様、岩見沢海友会長安田春男様、自衛隊父兄会岩見沢支部長の竹村正義様、札幌地方隊友会会長代理岸行雄副会長、隊友会美唄支部長の原田昌二様並びに岩見沢駐屯地司令、一戸一佐以下駐屯地関係者、二十四名のご来賓のご出席を頂き、定刻十七時、小山理事の司会進行により開宴された。

先ず、黒田副支部長から開会と歓迎の挨拶があり、ついで、岩見沢市長代理の嵐助役及び二戸岩見沢駐屯地司令並びに札幌地方隊友会岸副会長から感謝とお礼の祝辞を頂いた。

ついで、細川副支部長がご来賓の方々を一人ひとり紹介した後、祝杯のご発声を、岩見沢駐屯地業務隊長の宮脇二佐にお願し、活気満々にご発声された。

今年度の懇親会は八十七名の出席者があり盛会でした。それでも当日は岩見沢市内の各小学校の運動会とかち合の事で来年度は更に期待できそうです。

部外関係者、現役隊員との交流を深める場として、それぞれ懐かしい想いで話に花が咲き、小山名司会のリードにクラブを切って、長崎支部長のカラオケに端を発し、宴も

次第に盛り上がりつつあった。先刻「講演して頂いた業務隊長の宮脇二佐のカラオケは万雷の拍手で高く賞賛された。久しぶりにお出された会員もおり、数年振りの再会とあって話にも花が咲き、時間の経つのも忘れ語り合っている光景は隊友という絆のお蔭であると感銘した。

「温かき友の笑顔に支えられ握手のぬくもり心にしみみる」

終焉五分前の司会の案内で、恒例の北部方面隊歌を田中志意顧問のリードと谷藤弘氏の応援で大合唱となり、お開きになった。

そして、「またあいましよー」を合言葉に、堅い握手で別れを惜しんだ。

細川 金治 記

「こんにちはー 元氣です」

今回は、「北海道ハイウェイサービス株式会社」について紹介します。

我が国の高速度道路は、一九九七年現在総延長七九四四キロメートルに及びその内北海道における高速度道路及び一般有料道路の延長は約四一六キロメートルであり、逐次延長されております。

私は、主に通行料金の收受と交通管理等について一手に取扱っている会社です。

本社は札幌にあり、料金收受業務関係では、六営業所と三十八料金所があり、人員は約六百名です。

高速度道路の維持・整備、機械の整備等その他の業務を実施している会社はたくさんありますが、中でも我々の料金收受業務については、お客様との接点であり、その応接の良否が直接高速度道路の評価となるものであり、いわば高速度

道路の顔的存在であります。岩見沢営業所管内には、営業所の他、江別西・江別東・岩見沢・三笠・美唄の料金所があり、約六十五人が勤務しております。そのうち元自衛官は二十一名おり、岩見沢駐屯地出身隊員は現在十七名です。

料金所に勤務しているのは、以前勤めていた職場を定年等により退職になり、再就職したもののばかりでそのほとんどがいわば第二の人生の職場として働いているものです。

料金所の組織は、岩見沢営業所管内では所長一名・事務長一名・収受長四名・収受員四名から六名であります。現在岩見沢駐屯地出身隊員は、所長一名・事務長一名・収受長八名・収受員六名となっております。退職者の中にも、所長三名・事務長一名・収受長一名があり、岩見沢営業所管内において主要な役職に付いております。

以上紹介を終わります。なお、高速度道路の料金について、詳しく知りたい場合は、岩見沢料金所まで

電話〇二六（二五）五〇〇四 北海道ハイウェイサービス株式会社勤務

板谷 孝昭 記

ユニホームを着て事務所前にて、一緒に勤務している

左から田村久雄氏、板谷孝昭、高橋政次氏



講演する宮脇業務隊長



懇親会にて副支部長を囲んで前列左から長崎氏、岸行雄副支部長、青木氏、後列左から櫻井氏、大林氏、原田美唄支隊長、宮脇氏、小川氏、松田氏、川東氏

忘れもの
宮脇 隆二 氏

新隊員前期教育終了

四月五日～六月二十一日の間、岩見沢駐屯地で新隊員前期教育が実施された。

前期教育は、岩見沢駐屯地では、十回目で二年振りの教育であり教官菊地三尉のもと道内出身者四十名が、一名の落伍者もなく教育を終了した。

今回の学生は特に団結力が強くまた、学生の体力の伸びも目覚ましく、体力検定一級合格に6名(武田二士・元木二士・奥野二士・矢野一士・清水二士・川村二士)にも達した。



第10期新隊員前期教育隊40名

二等陸士 武田 和也
三月三十一日に教育隊舎に入って、居室に案内され、いろいろな人とすれ違って、怖そうなのも見ました。あとから自分の班長、班付がわかってさっき見た怖そうな人が班長で正直言ってショックでした。人というのは外見で判断してはいけないと思ひ話してみるとやっぱりいい人でした。笑う時は、笑い、仕事になると真剣になり、けじめのある人だと思いました。訓練の事を言えば、縫い物ばかりで朝から晩まで縫っていました。こんなに縫い物をしたのは初めてでした。自分は自衛

隊のイメージとしては、毎日走る事ばかりと聞いていたし、勉強しなくていいのかなと思つたら、勉強もしなくてはいけないし、ちょっとびっくりしました。この三ヶ月では、基本教練、間種占、射撃、自衛隊体操、ガス体験、野営訓練、ほふくなどいろいろな貴重な体験をして、楽しい事いっぱいでした。辛い事もたくさんあったが、四十人の同期の絆で結ばれているので、頑張れました。やっぱり何事にも、人間関係は大事で、自分の同期はいい人ばかりで良かったと思います。

新隊員教育を修了して

一等陸士 早川 勇氣

この三ヶ月は、今まで生きて来た中で一番自分に厳しくして来た期間でした。学生時代バカみたいに過ごしていた時間が凄く勿体なく感じました。ここで学ぶ事は知らない事ばかりで本当に迷いながら今日まで歩いてきました。でも、その迷い道の中には己の力強さを引き出してくれるものが沢山ありました。まず初めに「人の大切さ」が身に沁みる程感じられました。学生時代友達といえば、ただバカみたいに笑ったり、遊んだりする、それが一番大切だと思つてました。でも実際、ここに来ると欠けていた物があることが良くわかりました。自分が相手を中心信じる事が出来れば相手も同じ様にこちら

この三ヶ月は、あつと言う間に過ぎていきました。自分では、悔いの残らぬよう全力でやってきたので悔いはない。この四十人で訓練する事はもう一生無く、やはり寂しい感じもします。全国に新隊員はいっぱいあるけど、同期の絆はどこの新隊にも負ける気がしません。後期から、それぞれ離れていく人もいますが、友人には、誰にも負けないよう頑張つて欲しい。自分も前期以上に後期で頑張り、何事にも全力でこなし、誰にも負けないようにしたいと思ひます。

二等陸士 千葉 誠

自分が、この岩見沢駐屯地に来て思ったことが、まず、この職場でやっていけるのかと思ひました。しかし、日が経つに連れ、周りの同期と心が通じ合い、すぐ仲良くなりました。教育が、始まってから、自分にとっては厳しい日々が続きました。体力的、精神的にと、本当に辛い毎日でした。しかし、その辛い教育の中で、大切な事を学びました。それは、「団結」の必要性です。自衛隊に入隊して本当にその意味が分かり、実行できたと思ひます。この自衛隊は、団結、協力的な所が本当にやっていけない所だと思ひます。もう一つは、「時間の大切さ」です。入隊前は、のんびり暮らすことが、当たり前と思ひましたが、入隊してからは、そのような日々には後悔しています。何もしないで、時間が経過していく事は、今の自分にとって、本当にもつたないような気がしました。



新窯の火入れ式

岩見沢駐屯地陶芸部は老朽化した焼き窯に代わり新たな窯の入れ替え作業を終えてこのたび五月十九日初窯の火入れ式を行った。

新窯は灯油窯で酸化炎、還元炎に焼き分けられ、難しいとされる油滴天目、辰砂等の作品も焼成している。性能は、高さ七十cm、幅七十cm、奥行き八十cmで、湯飲みなら約二百個が同時にやけ、煉瓦の組み合わせを変え熱効率と保温性を向上させ燃焼温度は、千三百五十度まで温度を上げることができ、一定の温度を自動的に保てるなど、性能はグンとアップする。旧窯は、内壁の耐火煉瓦が崩れたり、ひび割れなどで老朽化が目立っていた。



